

## ジョン・フィールド(John Field, 1782-1837)

アイルランド出身の作曲家、ピアニストとして、特に\*\*ノクターン(夜想曲)\*\*というジャンルを確立したことで知られています。彼の音楽は後のロマン派音楽に大きな影響を与え、特にフレデリック・ショパンをはじめとする作曲家に多大な影響を与えました。

### 生涯

フィールドは1782年、アイルランドのダブリンで音楽家の家庭に生まれました。父親はバイオリニスト、祖父はオルガン奏者という音楽家の家系で育ち、幼少期から音楽の才能を示します。9歳でピアノの神童として注目され、ほどなくしてロンドンに移り住みました。ここで、著名な作曲家兼ピアニストであるクレメンティ(Muzio Clementi)の門下生となり、彼の影響を強く受けました。

ロンドンでの成功を受けて、1803年にフィールドは師クレメンティとともにロシアへ移住します。ロシアではサンクトペテルブルクを拠点に活動を展開し、彼はすぐに成功し、ロシアの宮廷や貴族社会で広く受け入れられました。ロシアでの生活は彼にとって創造的な時期で、多くのピアノ曲、特にノクターンを作曲しました。

しかし、フィールドは健康問題、アルコール依存、そして商業的な不安定さに悩まされ、1837年にモスクワで亡くなりました。彼の音楽遺産は、その後のピアニストや作曲家に広く影響を与えましたが、生涯を通じて商業的な成功を収めることはありませんでした。

### ピアノ作品

フィールドのピアノ作品は、その優雅さと繊細さで知られ、特にノクターンの分野で大きな功績を残しました。彼はこのジャンルを**独自に創出**し、後のロマン派音楽に大きな影響を与えました。

### 主なピアノ作品

#### 1. ノクターン(夜想曲)

フィールドは最初にノクターンを発展させた作曲家として評価されます。彼のノクターンは、夜の静けさや夢幻的な雰囲気を反映した旋律の美しさと、柔らかい伴奏で特徴付けられています。特に後のショパンがこの形式を発展させ、フィールドのノクターンはロマン派音楽の重要な一部となりました。

「ノクターン(夜想曲)」は、通常、夜の情景や気分を表現した抒情的なピアノ小品を指します。フィールドのノクターンは、穏やかで抒情的な旋律を特徴とし、繊細な感情を表現することに焦点を当てています。彼のノクターンは、右手で歌うような旋律と、左手のアルペジオや和音でサポートされる伴奏によって成り立っています。

## フィールドのノクターンの特徴

- **抒情性:** フィールドのノクターンは、メロディが非常に歌唱的で、旋律が美しく流れるように展開されます。この旋律の歌唱的な性質が、後のショパンのノクターンにも影響を与えました。
- **夜の雰囲気:** フィールドのノクターンには、夜の静けさや夢幻的な感覚を呼び起こすような要素が多く見られます。ゆったりとしたテンポで演奏されることが多く、柔らかく穏やかな音色が特徴です。
- **簡素な伴奏:** 多くのノクターンは、左手がシンプルな和音やアルペジオを伴奏として弾く構造になっています。これにより、右手の旋律が際立ち、より一層歌唱的な印象を与えます。
- **感情の多様性:** 彼のノクターンは、単なる美しさや穏やかさだけでなく、時には深い悲しみや内省的な感情を表現する作品もあります。この感情の多様性が、ノクターンというジャンルを深める重要な要素となっています。

## 主なノクターン

フィールドは生涯にわたり 18 曲のノクターンを作曲しています。

### 1. ノクターン第 1 番 変ホ長調 H24

- フィールドの最初のノクターンであり、彼のスタイルを確立した作品です。右手の旋律は非常に滑らかで、左手の柔らかなアルペジオが旋律を支

える形になっています。この曲は、彼のノクターンの基本的な特徴を示しています。

## 2. ノクターン第5番 変ロ長調 H37

- この作品は、フィールドのノクターンの中でも特に人気があります。右手の旋律が、穏やかで優美に展開され、左手の伴奏がそれをサポートします。曲全体を通じて落ち着いた雰囲気が漂い、深い感情が込められています。

## 3. ノクターン第6番 嬰へ長調 H40

- こちらのノクターンは、夜の静寂を感じさせるような柔らかい響きが特徴的です。特に右手の旋律が繊細で、左手のアルペジオがその旋律を優しく包み込んでいます。フィールドの抒情的なスタイルが顕著に現れています。

## 4. ノクターン第8番 イ長調 H46

- この作品は、明るく晴れやかな雰囲気が特徴です。右手の旋律は非常に軽やかで、左手の伴奏は優雅なアルペジオが多用されています。このノクターンは、フィールドの多様な感情表現が伺える曲の一つです。

## 5. ノクターン第12番 ト長調 H58

- フィールドのノクターンの中でも特に感傷的で、内面的な感情が込められた作品です。右手の旋律は、深い哀愁を漂わせており、左手の伴奏も非常に柔らかく、静かな感情の表現がなされています。

## フィールドのノクターンとショパンの比較

フィールドのノクターンは、後にショパンによって発展されましたが、両者の作品にはいくつかの違いも見られます。

- **フィールド:** フィールドのノクターンは、よりシンプルで素朴な美しさを追求しており、旋律の歌唱性に重きを置いています。伴奏も比較的簡素で、旋律が際立つようになっています。
- **ショパン:** ショパンのノクターンは、フィールドの作品よりも高度な技術や複雑な和声を取り入れられており、感情表現もより多様です。特にドラマチックな展開や、感情の高まりが強調されることが多く、フィールドの作品に比べてより深い内面的な表現がなされています。

## フィールドの影響と評価

フィールドのノクターンは、当時としては非常に革新的であり、夜の静けさや夢のような感覚を音楽で表現する新しい道を切り開きました。彼のノクターンは、特にショパンに多大な影響を与え、ショパンはフィールドのスタイルを取り入れつつ、さらにそれを発展させました。

フィールド自身は、ピアニストとしても非常に高い評価を受けており、彼のノクターンは当時のロシア貴族社会でも広く受け入れられました。ロシアやヨーロッパ各地で多くの弟子や支持者を得ており、彼の音楽はその後のピアノ音楽の発展に大きな役割を果たしました。

## 結論

ジョン・フィールドのノクターンは、夜の抒情的な情景を描いた新しい音楽形式であり、後世のロマン派音楽に多大な影響を与えました。その美しく抒情的な旋律と、シンプルながらも感情豊かな伴奏は、フィールドの音楽の特徴を如実に表しています。

## フィールドのソナタ

フィールドは生涯で7曲のピアノソナタを作曲しました。これらのソナタは、彼の初期の作品から後期の作品まで幅広い期間にわたり作曲されており、彼の音楽的な発展を追うことができます。

- **古典派の影響:** フィールドのソナタは、形式的にはハイドンやモーツァルト、ベートーヴェンといった古典派の影響を受けています。しかし、彼の作品はロマン派の初期的なスタイルも感じさせるものであり、抒情的な旋律や感情豊かな表現が特徴です。
- **旋律の美しさ:** フィールドのソナタの中心には、彼の得意とする歌唱的で美しい旋律が据えられています。特に第1楽章や緩徐楽章(第2楽章)で、彼のノクターンのような旋律的な美しさが際立ちます。

- **和声と色彩:** フィールドは和声の扱いが巧みで、彼のソナタには独自のハーモニーや音の色彩が見られます。特に転調や和声進行において、彼の革新的な面が垣間見えます。

### 1. ピアノソナタ第1番 変ホ長調 H.1

- **作曲時期:** 1801年頃
- **概要:** フィールドの最初のソナタであり、当時まだ古典派の様式が強く残っていた時代に作曲されました。この作品は、ハイドンやモーツァルトの影響が強く見られるもので、軽快で明快な表現が特徴です。フィールドの後期の抒情的なスタイルとは異なり、形式に忠実な古典派的なソナタです。

### 2. ピアノソナタ第2番 イ短調 H.12

- **作曲時期:** 1804年頃
- **概要:** 第2番のソナタは、フィールドの中でも特に感情的で劇的な要素が強い作品です。特にイ短調という暗い調性を使用しており、彼の後のノクターンに通じる内省的でメランコリックな感情が表れています。第2楽章では、抒情的なメロディが流れるように展開され、ロマン派的な要素が強く感じられます。

### 3. ピアノソナタ第4番 ハ長調 H.16

- **作曲時期:** 1808年頃
- **概要:** このソナタは、明るく快活な性格を持っており、フィールドの中でも比較的軽やかな作品です。特に第1楽章では、華やかなパッセージと歌うような旋律が交互に現れ、技術的な要求も高くなっています。第2楽章では、フィールドの得意とする抒情性が顕著に現れ、彼のノクターンに通じるような美しさを感じられます。

### 4. ピアノソナタ第5番 変ロ長調 H.26

- **作曲時期:** 1814年頃
- **概要:** 第5番のソナタは、フィールドが成熟期に差し掛かった頃の作品であり、彼の作曲技法が円熟したことがうかがえます。特に右手の技巧的なパッセージ

や、左手の豊かな和声の響きが特徴的です。この作品でも、フィールドのメロディの美しさと抒情的な表現が際立っています。

## 5. ピアノソナタ第7番 イ短調 H.52

- **作曲時期:** 1823年
- **概要:** フィールドの最後のソナタで、最も完成度が高いとされています。この作品は、彼のノクターンの様式が強く反映されており、特に第2楽章の緩徐楽章では、フィールドの歌唱的な旋律が際立ちます。また、第3楽章では劇的な展開があり、彼の感情表現が非常に豊かです。

## フィールドのソナタの影響

フィールドのソナタは、同時代の作曲家たちに少なからず影響を与えました。特に、彼の旋律的な美しさや和声の扱いは、ロマン派初期の作曲家たちに影響を与えました。また、彼のノクターンというジャンルが後世に大きな影響を与えたのと同様に、ソナタにおいても彼の抒情的な表現は評価されています。

## 結論

ジョン・フィールドのピアノソナタは、古典派の影響を受けつつも、彼自身の個性的な抒情的スタイルが強く表れた作品群です。特に旋律の美しさと和声の豊かさが際立っており、彼のノクターンとは異なる形式的な側面を持ちながらも、フィールドの感情表現が色濃く反映されています。

## 2. ピアノ協奏曲

ジョン・フィールド(John Field, 1782–1837)は、主にノクターンの創始者として知られていますが、彼のピアノ協奏曲も重要な作品群の一つです。フィールドのピアノ協奏曲は、彼の作曲技法と演奏スタイルを強く反映しており、彼の抒情的で優美な表現がよく現れています。フィールドは7つのピアノ協奏曲を作曲しており、それぞれが彼の音楽的發展や美学を反映しています。

## フィールドのピアノ協奏曲の特徴

フィールドのピアノ協奏曲は、古典派の形式を持ちながらも、ロマン派の感情豊かな表現が特徴です。彼の協奏曲は、技巧的なパッセージと優美な旋律が巧みに融合されており、特に彼のノクターンの様式が反映された緩徐楽章が特徴的です。

- **抒情的な旋律:** フィールドのピアノ協奏曲には、ノクターンと同様に美しい旋律が多く、歌うような抒情的なフレーズが特徴的です。
- **技巧的な要素:** ピアノパートは高度な技術を要求し、華やかなパッセージや速いスケール、装飾音が頻繁に使用されますが、これらはフィールド独自の優美さと流れるような音楽性で表現されます。
- **オーケストレーション:** オーケストラの伴奏は比較的シンプルであり、ピアノが主役となるようなバランスが保たれています。オーケストラは背景に徹することが多く、ピアノの抒情的なメロディを引き立てる役割を担っています。

### 1. ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 H.27

- **作曲年:** 1799年
- **概要:** フィールドが17歳の時に作曲した最初の協奏曲で、当時まだ若い彼の才能がすでに顕著に現れている作品です。この協奏曲は、古典派の影響が色濃く、明快な楽章構成と調和の取れた旋律が特徴です。特に第2楽章の抒情的なメロディは、後のノクターンの先駆けとなるような優美さがあります。

### 2. ピアノ協奏曲第2番 変イ長調 H.31

- **作曲年:** 1811年頃
- **概要:** フィールドの成熟期に作曲されたこの協奏曲は、抒情的な旋律が際立っており、技巧的な要素と美しいハーモニーが融合しています。特に第2楽章の緩徐楽章は、フィールドのノクターン的なスタイルを感じさせる穏やかで叙情的な音楽です。

### 3. ピアノ協奏曲第3番 変ホ長調 H.32

- **作曲年:** 1814年頃

- **概要:** 第3番は、彼の協奏曲の中でも特に人気があり、技術的な難易度が高く、かつ抒情性に富んでいます。第1楽章は堂々とした序奏に続き、華麗なピアノパートが展開されます。第2楽章では、甘美な旋律がピアノとオーケストラの間で繰り広げられ、フィールドのノクターンのような表現が最もよく現れています。

#### 4. ピアノ協奏曲第4番 変ロ長調 H.28

- **作曲年:** 1814年頃
- **概要:** 第4番は、フィールドの中期の作品であり、軽やかで優雅な雰囲気の特徴です。第1楽章は、古典派的な形式を持ちながらも、フィールド独自の抒情的な旋律が豊かに展開されます。第2楽章は静かで内省的な性格を持っており、ピアノが美しい旋律を繊細に奏でます。

#### 5. ピアノ協奏曲第5番 ハ短調 H.37(「悲愴」)

- **作曲年:** 1817年頃
- **概要:** 第5番は、フィールドの協奏曲の中でも異色の作品で、彼の協奏曲の中で唯一の短調作品です。この作品は「悲愴」と呼ばれることもあり、内省的で劇的な要素が強調されています。第1楽章は力強く、感情的な展開があり、第2楽章では美しい旋律が切なく流れます。この協奏曲は、彼の後期の抒情的なスタイルを代表する作品です。

#### 6. ピアノ協奏曲第6番 ハ長調 H.49

- **作曲年:** 1832年頃
- **概要:** 第6番は、フィールドが晩年に作曲した協奏曲で、成熟した表現力が光ります。この協奏曲は、優美で穏やかな雰囲気を持っており、特に第2楽章では、静かな中に深い感情が込められています。

#### 7. ピアノ協奏曲第7番 ハ短調 H.58

- **作曲年:** 1832年
- **概要:** フィールドの最後の協奏曲であり、彼の晩年の作品の中でも非常に感情的で壮大な作品です。この協奏曲では、ピアノとオーケストラの対話がより豊か

に表現され、フィールドの技術と感性が最も高いレベルで融合しています。特に第2楽章の甘美な旋律が印象的です。

## フィールドのピアノ協奏曲の影響

フィールドのピアノ協奏曲は、ロマン派音楽の発展に大きな影響を与えました。彼の作品は、ショパンやメンデルスゾーンなど後世の作曲家に影響を与え、特に抒情的な旋律やピアノパートの美しい展開は、彼らの作品にも共通する特徴です。また、フィールドはピアニストとしても優れた技術を持ち、彼の演奏スタイルも多くのピアニストに影響を与えました。

## 結論

ジョン・フィールドのピアノ協奏曲は、彼の優れた抒情性と高度な技術が融合した作品群であり、古典派の形式とロマン派の表現力が絶妙にバランスされています。彼の協奏曲は、ピアノが主役となり、美しい旋律と技巧的なパッセージが豊かに展開されるため、ピアニストにとっても重要なレパートリーです。

## 1. 即興曲

即興曲 (Impromptu) は、フィールドが得意とした抒情的で自由な形式の作品であり、彼の美しい旋律感や柔軟なリズム感がよく表れています。フィールドの即興曲は、特定の形式にとらわれることなく、自由な発想で作曲され、リリカルで情感豊かなスタイルが特徴です。彼のノクターンと似た叙情的な旋律が、即興曲にも多く見られます。

- **自由な形式:** フィールドの即興曲は、伝統的なソナタ形式やロンド形式のような厳格な構造には縛られず、ピアニストが自由に表現するためのスペースを提供しています。
- **抒情的な旋律:** 特に右手のメロディが際立ち、歌のような旋律が流れるように展開されます。これにより、フィールド特有のロマンティックな表現が実現されています。

- **即興的な要素:** 「即興曲」というタイトルが示すように、即興性が作品の特徴の一つです。これはフィールドが優れた即興演奏家であったことを反映しています。

## 2. ロンド

フィールドのロンド(Rondo)は、古典的なロンド形式(A-B-A-C-A)に基づいて構成されています。ロンド形式では、特定のテーマ(A)が繰り返され、その間に異なるエピソード(B、Cなど)が挟まれるのが特徴です。フィールドはこの形式を使って、彼の独特の抒情性や明快な旋律を効果的に表現しました。

- **明快なテーマ:** フィールドのロンドでは、テーマが繰り返されるたびに、装飾や変奏が加えられることが多く、演奏者にとっては技術的な挑戦も伴います。
- **旋律の多様性:** 繰り返されるテーマに対して、新しいエピソードが多様な旋律とリズムで展開されるため、単調さを感じさせません。
- **装飾音:** フィールドのロンドには、彼の即興的な演奏スタイルを反映する装飾音や華麗なパッセージが多く含まれています。

## 3. 変奏曲

フィールドは、変奏曲(Variations)でも独自のスタイルを発揮しています。彼の変奏曲では、シンプルな主題が次々と変形され、華やかで装飾的なパッセージやリズムの変化が施されます。変奏曲は、彼の高度なピアノ技術と音楽的創造力を示す作品群の一つです。

- **主題と変奏の対比:** フィールドの変奏曲は、主題とその変奏が明確に対比され、各変奏が異なるキャラクターや感情を表現することが多いです。これは、彼の即興的な要素と深い音楽的洞察力が反映されています。
- **技巧的なパッセージ:** フィールドは変奏曲の中で、ピアニストに高い技術を要求する装飾音やトリル、急速なスケールなどのパッセージを多用しています。これにより、演奏者は変奏ごとに新たな表現力を求められます。
- **抒情的な美しさ:** フィールドの変奏曲は、技巧的な要素だけでなく、彼特有の抒情的で美しい旋律も際立っています。特に緩やかな変奏では、彼のノクターン的な美しさが発揮されます。

## フィールドの即興曲、ロンド、変奏曲の意義

フィールドの即興曲、ロンド、変奏曲は、彼のピアノ技術と表現力の高さを示すと同時に、彼の音楽的な柔軟性や創造性をも表しています。これらの作品は、フィールドがピアニストとしてだけでなく、作曲家としても多面的な才能を持っていたことを証明するものであり、彼の全作品の中でも重要な位置を占めています。

フィールドは、**即興性**を重んじる演奏家として知られ、その自由なスタイルは後のロマン派音楽に大きな影響を与えました。特にショパンやリストといった後のピアニスト作曲家たちは、フィールドの作品からインスピレーションを得ており、フィールドの音楽が持つ**感情的な深みや抒情性**が彼らの作品にも反映されています。

フィールドの即興曲、ロンド、変奏曲は、**古典派とロマン派の架け橋**となる重要な作品群であり、彼の音楽が時代を超えて愛され続けている理由の一つです。

## 思想・作風

フィールドの音楽は、彼の時代の典型的な形式的な構造から脱却し、より**感傷的でロマンティックな要素**を重視した点で革新的でした。彼はメロディーの美しさを追求し、特にピアノ音楽において詩的な情感を表現することに重点を置きました。

彼の作品は、形式的にはクラシカルな影響を受けつつも、そこに柔らかな感情や夢のような美しさを吹き込むことを目指しており、これは後にロマン派の作曲家に受け継がれました。ショパンをはじめとする多くの後世の作曲家たちは、フィールドの作品から影響を受け、その詩的なピアノスタイルを模倣し発展させました。

## フィールドを取り巻く人々

- ムツィオ・クレメンティ

クレメンティはフィールドのピアノの師匠であり、彼の音楽的基盤を築いた人物です。クレメンティは優れた作曲家、ピアニスト、音楽教育者であり、フィールドに大

きな影響を与えました。フィールドは彼からクラシカルな形式や技術を学びつつ、後に自分自身のスタイルを発展させました。

- **フレデリック・ショパン**

ショパンはフィールドの音楽から大きな影響を受けた作曲家の一人です。特にノクターンというジャンルにおいて、フィールドの作品はショパンのノクターンに直結するものがあります。ショパンのノクターンはより複雑で内省的な性格を持っていますが、その基本的な抒情性や夢幻的な雰囲気はフィールドからの影響が明らかです。

- **フランツ・リスト**

リストもフィールドに深い尊敬を抱いていました。リストはフィールドの作品を演奏し、その抒情的な美しさを称賛しています。フィールドのノクターンや他の作品が、リストの演奏技術や表現に影響を与えたことは明白です。

## フィールドの影響

フィールドの最大の功績は、**ロマン派ピアノ音楽の道を切り開いたこと**です。彼のノクターンというジャンルは、後にショパンによってさらに発展され、リストやドビュッシー、フォーレなど多くの作曲家に影響を与えました。彼の音楽はその抒情性、詩的な表現力で後世にわたって称賛され、ピアノ音楽の歴史において重要な地位を占めています。

彼の思想は、技術的な技巧に頼るだけでなく、音楽が持つ感情的な深みや、聴衆に静寂や夢見心地を感じさせる力に注目するものでした。そのため、フィールドの作品は聴く者に詩的な感動を与えると同時に、演奏者にとっても非常に表現力豊かであると評価されています。